

2024年度 活動計画書

学びの支援：子どもデザイン教室

主幹：和田隆博／久保 晶・出口奈津子・島津侑花・植野明日香

1. 事業概要

2007年の創設以来、2024年度で子どもデザイン教室は創設18年目に入ります。2024年度は前年度に引き続き、作品を製作することで自己表現力を高める「絵と工作レッスン」と、商品を製作・販売することで自己肯定感を高める「こどキャラレッスン」の2つのレッスンを実施します。加えて、大阪府立大学院での研究成果を活かした新ワークショップ「手作りとお喋りの時間」を始めます。これは創作活動によって社会的養護児童の意見表明を促進する新たな試みです。

また、子どもデザイン教室の次世代チームによる「デザイン国語」、2023年度に開店した2号店「子どもデザイン教室KYOTO」も精力的にレッスン・ワークショップを実施し、その成果を学会・講演会で発表します。こうして次世代への移行を引き続き実行してまいります。

2. 絵と工作レッスン

(1)実施要項

- ・自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てます。作品を作ることの楽しさを体験します。
- ・期間＝4月27日～2025年3月15日
- ・土曜第1・2・3週クラス＝12：30～15：30（月1回）
- ・受講の目安＝年長児～中学生
- ・月会費＝各5,500円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円

(2)実施内容

- ・5月＝Tシャツを作ろう
- ・6月＝おでかけバッグを作ろう
- ・7月＝水族館で遊ぼう
- ・8月＝工作 ゲームを作ろう 前半
- ・9月＝工作 ゲームを作ろう 後半
- ・10月＝ハロウィンクッキーを作ろう
- ・11月＝キャラ弁を作ろう
- ・12月＝クリスマス会
- ・2025年1月＝工作好きなものを作ろう 前半
- ・2025年2月＝工作好きなものを作ろう 後半
- ・2025年3月＝発表会 おとなも絵と工作レッスン

(3)実施主旨

レッスンの狙いは、自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てることです。毎月1回土曜午後の3時間、絵や工作などの造形作品を創作することで、作ることの楽しさを体験します。また、完成させる力や発表や仲間との協力など、困難を乗り越える力も身につけます。お弁当一緒に食べて親交を深めたり、ゲームをしたりもします。買い弁など持参でご参加頂きます。



3. えとこうさくレッスン

(1)実施要項

- ・「絵と工作レッスン」のさらに初心者向けの取り組みやすい内容で、自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てます。作品を作ることの楽しさを体験します。
- ・期間＝4月20日～2025年3月30日
- ・土曜・日曜第4週クラス＝14：00～15：30（年6回）
＊実施日は施設と相談の上、決定。
- ・受講の目安＝年長児～中学生
- ・月会費＝社会的養護児童専用につき無料・年会費＝3,000円



(2)実施内容

- ・5月・6月＝色画用紙で遊ぼう
- ・6月・7月＝クレヨンで遊ぼう
- ・7月＝水族館で遊ぼう
- ・8月・9月＝ゲームで遊ぼう
- ・2024年1月・2月＝好きなものを作ろう 前半
- ・2024年3月＝好きなものを作ろう 後半

(3)実施主旨

社会的養護児童は自己肯定感が低い傾向にあるため、挑戦することをためらったり、結果を恐れたりすることがあります。このため、従来の「絵と工作レッスン」では、受講が困難な社会的養護児童でも、安心してレッスンが楽しめるように、レッスン内容を初心者向きに作り替えました。また、より多くの社会的養護児童がレッスンを受けられるように、実施日を各児童養護施設専用としました。受講生を特定せず、誰でも、1回でも、全回でも自由に受講出来るようにし、引率が難しい場合は、施設での実施も可能です。このように自由度を高めたレッスンスタイルで、より多くの社会的養護児童が受講可能なように工夫しました。



4. こどキャラレッスン

(1)実施要項

- ・自己肯定感を高め、自分を主張する力を育てます。商品を作り、販売する楽しさを経験します。
- ・木曜クラス＝17：30～19：00（月4回）
- ・目安＝小学3年生～高校生
- ・月会費＝11,000円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円

(2)実施内容

- ・5月＝キャラクターをデザインしよう
- ・6月＝フィモ粘土でデザインしよう
- ・7月＝アクリル毛糸でデザインしよう
- ・8月＝レジンでデザインしよう
- ・9月＝絵本のプレゼンをしよう
- ・10月＝絵本のプレゼンをしよう・お菓子をデザインしよう
- ・11月＝発表会 言葉で描く絵本の世界・絵本をデザインしよう
- ・12月＝絵本をデザインしよう・キャラ弁をデザインしよう・クリスマス会
- ・2024年1月＝オリジナル商品をデザインしよう
- ・2024年2月＝オリジナル商品をデザインしよう
- ・2024年3月＝オリジナル商品をデザインしよう・発表会 こどカフェ＆ショップ

(3)実施主旨

オリジナルキャラクターをデザインし、それをピンバッジ、マスコット人形、アクセサリーのキャラクター商品にします。それを3月に子どもデザイン教室で開催する「こどキャラショップ＆カフェ」で自ら販売し、おこづかいにします。ほかにも11月には自分のお薦めする絵本をプレゼンテーションすることで、意見表明の練習をする発表会「言葉で描く絵本の世界」を開催します。遊び感覚で自己肯定感を高める社会体験型のレッスンです。



5. 手作りとお喋りの時間

(1)実施要項

- ・おとなと子どもがペアになり、絵や工作をしながら会話を楽しむことで子どもの意見表明力を育てます。
- ・月曜・火曜・水曜実施＝約1時間（適宜実施）
- ・目安＝小学3年生～成人
- ・月会費＝社会的養護児童は無料・年会費＝社会的養護児童は無料



(2)実施内容

平日のご都合のよい時間に里親宅や児童養護施設にお伺いして、絵や工作をしながら会話をします。おとなは「どうしたの？AとBならどっち？なぜ？」と基本的に3つの質問をするだけ、傾聴に努めます。子どもは絵や工作をしながらおとなの問いかけに答えます。進行はファシリテーターの和田隆博がします。おとなは子どもの話の中から普段抱えている課題や要望を発見し、今後の養育に役立て、また、子どもは自分の気持ちを伝える力を育みます。

(3)実施主旨

社会的養護児童が毎日の暮らしの中で求めているものは、その子の軸となる保護者との関わりです。この保護者との関わりは、児童精神医学者のボウルビィがアタッチメント理論で提唱するように、どこかで満たされるものではなく、永遠に求め続ける情緒的な繋がりと言われています。そこで、子どもデザイン教室では、そうした保護者との関わるの時間を提供するワークショップが必要と考えました。それが「手作りとお喋りの時間」です。

このワークショップに絵や粘土などの創作活動を用いる理由は「アートという視覚言語を媒体に用いるため、自分の気持ちをうまく言葉で表現できない子どもや高齢者にも、感情表現とコミュニケーションの手段として導入できる※」からです。これまで何回、この「手作りとお喋りの時間」を実施してきましたが、いずれもおとなからも子どもからも高い評価を得ています。今後は、児童養護施設や里親宅においてこの「手作りとお喋りの時間」を増やし、社会的養護児童の意見表明の促進に寄与したいと考えています。

※関則雄（2016）『臨床アートセラピー—理論と実践—』日本評論社より

6. 2024年度の計画

(1)レッスン日数＝100日／2023年度105日／2023年度比95%

(2)レッスン回数＝102回／2023年度149日／2023年度比68%

(3)受講人数＝68人（一般家庭児童17人・社会的養護児童51人）／
2023年度117人／2023年度比58%

(4)受講延べ人数＝553人（一般家庭児童187人・社会的養護児童366人）／
2023年度1,125人／2023年度比49%

(5)満足度（5段階評価で4以上の割合）＝100%／2023年度99%／
2023年度比101%

(6)収入（会費収入）＝1,270,500円／2023年度2,425,370円／2023年度比52%

※2024年度の「手作りとお喋りの時間」は、試験段階のため含めず。



学びの支援：デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO

主幹：伊藤嘉余子・藤井健志・井上翔一

1. レッスン・ワークショップ

子どもデザイン教室KYOTOでは2024年度、京都市の東山母子生活支援施設で定期レッスン「へんてこキャラクターをデザインしよう」を年6回実施します。

2. 学会発表・講演会

5月18日にCAPセンター・JAPAN公開セミナー「子どもたちの今。そして、これから。2024」で「子どものアドボカシー支援のために—自己理解と他者理解を往還するデザイン国語—」を実施します。子どものセルフアドボカシー力を支援するためのデザイン国語の取り組みをご体験頂きます。そして11月30日・12月1日に日本子ども虐待防止学会「JaSPCANかがわ2024」で2024年度もデザイン国語のシンポジウムをします。2018年から7年連続の報告です。2024年度は「福祉×国語×デザイン「デザイン国語」による「助けて」のデザインとセルフアドボカシー支援」の研究成果を伊藤嘉余子先生・藤井健志先生・井上翔一先生が発表します。

このように2024年度も学会発表や講演会、ホームページ・FacebookなどのSNSを通して、デザイン国語の啓発活動を精力的に続けてまいります。さらに関係各所よりご要望の多い書籍化にも着手してまいります。



1. 子どもデザイン基金事業

子どもデザイン基金事業は、企業様・団体様・個人様との協同による資金支援事業です。福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」の実施、企業様との協同、活動説明会「こどカフェ」の実施、賛助会員「キッズサポーター」の募集をし、2024年度も暖かいご寄付・ご寄贈・ご支援を期待しています。

2. ご寄付部門

(1)企業寄付

企業様・団体様13社様より77.4万円のご寄付を計画しています。

(2)個人寄付

年会費会員68名様より20.4万円、個人寄付会員30名様より19.1万円、継続会員20名様より64.4万円の合計181.3万円のご寄付を計画しています。このため、6月に2023年度報告書・2024年度計画書（本紙）を150通手渡し・郵送の予定です。

(3)会員数＝個人118名様・法人13社様／2023年度 個人121名様・法人14社様／2023年度比97%

(4)収入（寄付金収入）＝1,813,000円／2023年度2,218,824円／2023年度比81%

3. 助成金部門

(1)助成金

子どもデザイン教室KYOTOとしての助成金申請は2024年度は丸紅基金助成金111万円に応募する予定です。

(2)収入（補助金収入）＝1,110,000円／2023年度300,000円／2023年度比703%

助成金は応募中のため、2,024年度予算書には未計上です。

4. こどキャラ部門

(1)こどキャラ

こどキャラは個人様・法人様と協同して、社会的養護児童の自立・事業資金を創出する福祉型キャラクタービジネスです。2024年度もご依頼を頂いたイラストを子どもデザイン教室に通う子どもたちと制作し、主に子どもたちの自立資金、当法人の運営資金に充当する予定です。2024年度は里親支援機関の結い様と協同して、里親啓発のためのポスターなど、印刷物を製作する予定です。

(2)収入（事業収入）＝550,000円／2023年度212,150円／2023年度比259%

(3)内訳＝自立資金137,500円・事業資金412,500円（販売管理費を含む）

5. 企業協賛部門

(1)大阪東ロータリークラブ様・大阪中之島美術館様

2024年度も2023年度に引き続き、大阪東ロータリークラブ様にご支援を頂く予定です。2024年度は9月と2025年2月に「大阪中之島美術館ラーニングプログラム」に社会的養護児童をご招待する予定です。これは大阪中之島美術館で開催される「TRIOパリ・東京・大阪モダンアートコレクション」を鑑賞し、鑑賞後はワークショップ会場で創作アートを楽しみ、想像力を高めることができるプログラムです。



6. ご寄贈部門

(1)ご寄贈

フードバンク大阪様を始め、10名の方からお菓子や画材のご寄贈を頂く計画です。

(2)収入＝150,000円相当／2023年度131,520円相当／2023年度比114%

7. 理事会・広報部門

(1)理事会

2カ月に1回、理事会を実施し、中期・長期計画を話し合います。

回数＝6回（総会を含む）／延べ参加人数＝40名／2023年度37名／2023年度比108%

(2)こどカフェ

子どもデザイン教室の活動内容、社会的養護児童の問題、意見表明と創作活動の因果関係などをお話する活動説明会リアルこどカフェを実施します。ご来場の皆様にミックスジュースを振る舞い、対面で和やかな雰囲気でお話するリアルなカフェスタイルで楽しみたいと思います。

回数=6回/延べ参加人数=10名/2023年度9名/2023年度比111%

(3)ホームページ

2020年度より遅々として進まなかったホームページの改訂作業ですが、2024年度は新たなボランティアスタッフのご支援を得て、ようやく改定作業に取りかかる予定です。

(4)広報

Facebook・Instagram・X・LINEなどのSNS、ホームページ、ニュースメールを通じて子どもデザイン教室の活動を紹介します。ニュースメールは毎回約400通の配信を予定し、約60%以上の開封率をめざします。

暮らしの支援：こどもサポートホーム

主幹：和田隆博/三木友紀子・山口杏子・和田 幸

1. 子どもサポートホーム事業

6年目を迎えたファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）。5人の社会的養護児童を養育しています。2024年度も2023年度に引き続き、①健康と安全、②生活全般、③学習・運動・余暇、④人間関係と社会性の構築、⑤過去や実家族、⑥自立の支援、⑦職環境の整備、⑧次世代への継承といった8つの課題に取り組めます。

2. 日々改善を続ける8つの課題

2018年から始まったこどもサポートホーム事業（以下ホーム）。立ち上げ当初の子どもの気持ちに寄り添えなかった反省から、研修と実践を重ね、年々改善を続けています。特に2022年度より実践している「子どもの立場に立って考える」は、恥ずかしながら、これまで疎かにしてきた知見です。こうした多くの経験を踏まえ、現在の課題を以下のように整理しました。

①は健康と安全です。これはホームに関わる全ての人の最優先事項です。特に安全は予防的危機管理と発生時の緊急対応措置を考え、未然の防止と経験を次の予防的危機管理に活かします。②は食生活・睡眠・衛生・衣服などの生活全般です。食事に関しては高いレベルを日々維持しています。実子を育てたときと同じような養育基準を常に意識します。③は学習・運動・余暇です。教科学習の強化に偏重した教育には疑問です。できるだけ多くの経験を積むために年3回の旅行、自然や文化体験、塾・習い事、クラブ活動など、本人の意向を踏まえ、バランスの良い教育を考えます。④は人間関係の構築です。同居する子ども同士を始め、友人・おとな、地域・社会との健全な関係を築きます。また、社会性の構築です。他者理解と自己理解を往還し、自己形成・自己実現ができるよう、人・モノ・時間を大切にすることを教えます。⑤は過去や実家族との問題です。どの子どもも過去や家族と対峙しています。血縁という絶ちがたい課題にどう向き合うのか、その選択と判断を支援します。⑥は自立の支援です。自立の支援はもとより、自立後もホームが実家機能となるように配慮をします。⑦はホームで働く人全ての職環境の整備です。共に長く健やかに働ける環境作りをします。⑧は次世代への継承です。私たちおとなには、子どもたちの平和な毎日と社会に送り出す責任があります。特に和田隆博代表に万一のことがあったとき、どう次世代に継承するのか？は重要な課題です。

以上、このような複雑な課題に対して、毎日の実践と研修を重ねて、日々改善に務めてまいります。



1. 子どもデザイン教室の中期・長期計画

2023年度に発表した中期・長期計画では、次の4点をお約束しました。それは、①社会的養護児童事業に集中するための「一般家庭児童レッスンの縮小と社会的養護児童レッスンの拡大」、②社会的養護児童の意見表明とおとなの傾聴姿勢を育てるための「新しいワークショップの実施」、③セミナー・体験レッスンの実施、レッスンコンテンツの販売、書籍化や動画配信などの「普及活動の実施」、④伊藤嘉余子先生・藤井健志先生・井上翔一先生のデザイン国語チーム、2号店の子どもデザイン教室KYOTO、この2つの事業に代表される「次世代への移行」の4点です。



2024年度もこの中期・長期計画を引き続き具体的に実行していきます。①は「こどキャラレッスン」「絵と工作レッスン」のレッスン数の縮小と児童養護施設専用の「えとこうさくレッスン」の新設を実施します。しかし、縮小するレッスンは、いずれも社会的養護児童が受講しているため、すぐには終了しない予定です。ただし、肩の力を抜いて最後のレッスンをゆったりと楽しみたいものです。②は社会的養護児童向けの無料ワークショップの「手作りとお喋りの時間」を実施します。③は施設職員・里親向けの有料セミナーの「手作りとお喋りの時間」を実施します。④は伊藤先生・藤井先生・井上先生、三氏の次世代メンバーによる精力的な活動が見込まれています。

しかし、問題は2024年度から2026年度だけでも年間127万円から140万円の赤字が想定される点です。原因は有料レッスンの縮小です。この問題を改善するために、前述③の有料セミナーの実施、内部資金の取り崩し、時間的余裕をみて寄付金のお願ひ、助成金の申請、こどキャラ事業の実施に取り組みます。また、2023年度の計画書でお約束した、現在の山坂事業所から代表理事の自宅である南田辺事業所への移転は一旦見送り、固定資産である山坂事業所を有効活用し、経費の削減に努めます。

以上お示した通り、子どもデザイン教室は、①美術の機能で子どもの気持ちをおとなに届ける創作のワークショップとセミナーの「手作りとお喋りの時間」、②国語の機能で子どものアドボカシーを育てる言葉のレッスンとワークショップ「デザイン国語」、この2つの事業を精力的に推進してまいります。

2. 子どもデザイン教室にご賛助のお願い

2007年に誕生した子どもデザイン教室は、デザインレッスンとこどキャラ事業で社会的養護児童の自立を支援することを使命としてきました。しかし、2019年度からの取り組みとして、今後は社会的養護児童の意見表明とおとなの傾聴姿勢を育てることを使命としていきます。そのためには教えるレッスンから共に学ぶワークショップへと活動の概念を変える必要があり、それには定款の変更をする必要があります。ただし、子どもデザイン教室に通底する想いである「遊びながら学ぶ、自己肯定感を育てる、自分デザイナー（自分の人生をデザインできる人）を育てる」はいささかも変わることはありません。

最後に本項では子どもデザイン教室の活動で、人が、地域が、日本がどのように変わるのかをお示したいと思います。まずミクロレベルでは、ワークショップを実施することで、楽しみながら自分の気持ちを伝える子どもが児童養護施設や里親宅に増えていきます。次にメゾレベルでは、セミナーを実施することで、子どもの意見表明とおとなの傾聴姿勢を大切にするおとなが地域に増えていきます。最後にマクロレベルでは、ワークショップやセミナーの内容を書籍化することで、子どもの人権を大切にする人が日本に増えていきます*。

以上が子どもデザイン教室が皆様にお約束するミッションです。しかし、こうした活動には皆様のご支援が欠かせません。ぜひ子どもデザイン教室の活動にご賛同頂き、ボランティアやご寄付など、皆様にできる範囲の形でご賛助くださいますよう、心からお願い申し上げます。

*文部科学省（2012）「虐待の基礎的理解」によると、虐待を招く子どもへの誤解として、子どもに対する不正確な認知、子どもの独立した人格を理解しない、子どもとは言うことを聞く生きものとする、子どもの発達を平均以下に見てしまう、子どもに非現実的な期待をするなどの理由が指摘されています。日本では子どもの人権への理解はまだ不十分です。